



復刊第118号  
題字 吉岡弥生

### 哀之極

副会長 佐藤千代子

この号が皆様のお手許に届く頃は、新緑の薫風が野に山にみちみちしていることでしょう。

「昭和天皇大喪の礼」の二月二十四日は、氷雨と小雪まじりの寒い冷たい一日でした。今冬の暖かさの中の突如としての荒天に、私は天地の神々の慟哭を感じずにはいられませんでした。

黄色や白の長い旗やほこ、大真綿などを持った古式ゆたかな装束の祭官の列につづき、黒の武官装束の一人に担がれた葱華輦が肅々と進むテレビの画面に、思わず眼の奥が熱くなりました。それは私自身思いがけなく自然にあふれ出た涙でした。大正天皇葬以来六十二年ぶりに奏される葬送曲「哀之極」(かなしみのさわ

み)すべて無の中に凝縮した悲しみの心の調べにふれた思いでした。

その日、新聞には戦争責任、天皇制打倒、政教分離とおどろおどろしい活字が並びました。明日の平和のために当然語られるべき問題ではありましょう。しかしこの日一日、静穏に死を悼んでもいいのではと悲しく思ったことでした。私自身戦争で家族四人を失い家を失い、空襲で逃げ惑う際、背中のリュックサックに焼夷弾がつきささった恐怖は今なお忘れることはできません。しかし陛下に戦争責任があると弾劾する気持はおきません。その背に国家と民を負い、その重さに一番苦しまれたのは陛下であったと思います。名もな

た陛下、限りなく純粹無垢のお人柄の陛下のご冥福をお祈りするばかりです。

大喪には世界のほとんどの国から、そして共産圏の国からも国家の代表が参列され弔意を表しているのに、日本の政党が参列を拒否するのは私には理解し難いところです。

崩御された日、大喪の日さえも国旗を掲げている家の少ないのにも驚きました。現在の国旗、国歌の是非論は別として、国旗を掲揚し国歌を唱えること即、軍国主義であるという発想によるものか、国というの私どもと関係のないところにあるとの認識なのでしょう。日本は国民国家ですのに。

しかし、何といつてもすべてに自由な発言の許されることこそ一番の幸せと申せましょう。多種多様な意見が自由に討議される中で進むべき道が定まってくると信じます。そのため、世界の中における日本を十分認識した上で論議されることが大切だと思います。

最近反体制の意見こそが知識人の表現であるような錯覚を持つ人もいるのではないのでしょうか。古来の道徳観念、良識風俗にも古今東西を問わず人間にとっての大切な真理があると思います。それが強調されても時代は決して逆行することはありません。新しい流れの中で渦巻きながら素晴らしい地球を求めて変革してゆくことでしょう。昨今はまた、加害者の人権ばかり

### もくじ

哀之極.....佐藤千代子 (1)

各部報告

学術部.....橋本 葉子 (2)

事業部.....石原 幸子 (3)

広報部.....小暮美津子 (3)

庶務部.....三好 美春 (4)

会計部.....二村美美江 (4)

渉外部.....野澤 良美 (4)

支部だより

北海道支部だより(北海道支部).....武田 正子 (5)

私の大学(沖縄支部).....金城 紀子 (5)

第20回内藤記念科学振興賞を受賞して.....藤井 僖子 (6)

藤井僖子先生の受賞を祝う.....橋元 博子 (7)

著書紹介

清水新緑編『清水八束遺稿——産婦人科医ノート』.....久保田くら (7)

便利帳.....小出つる子 (8)

第34回日本女医学会定時総会ご案内..... (2)

第21回国際女医学会会議参加ご案内..... (8)

第21回国際女医学会会議への若い女医の参加援助..... (9)

第3回ワークショップ「環境と遺産」開催のお知らせ..... (6)

常任理事会議事録..... (8)

理事会議事録..... (8)

会員動静..... (10)

編集後記..... (10)

各部報告

学術部

尊重され、被害者の人権は軽視され... 大喪の日、テレビ局には電話の抗議が数多くあったといえます。

よくな日こそ、テレビに束縛されない自由を家族で楽しむ心のゆとりと転換がなければ、人間はいつか機械文明に浸蝕されてしまうのではないのでしょうか。

橋本 葉子

学術部の主な事業は学術研究助成とワークショップ及び学術講演研修会を行なうことです。昭和六十三年度の研究助成(第八回)は阿部真知子講師(愛媛大・医・眼科)...

次にご覧下さい。平成元年年度の事業計画をご報告いたします。学術研究助成受賞者は次の四名に決定いたしました。

成元年初の総会でございます。学問の世界で社会の中で、女医の特性が光として期待されるよう、連帯を深めて参りたいと思っております。皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

第34回日本女医学会定時総会ご案内

期日 平成元年5月20日(土)・21日(日)
会場 ホテル・ニュートツカモト
千葉市千葉港七-1
TEL 〇四七二-四三二-一一一

事業部

昨年度の事業部最大の事業でありました、禁煙ポスターは、無事完成し、六十三年十二月各支部長先生宛にお送りいたしました。

の周囲に、また知人、友人の中に素晴らしい活躍をしておられる方がありましたらぜひご一報下さい。

石原 幸子

広報部

質問、不明の点等がございましたら事業部から説明に参ります。最後に本年度の公衆衛生事業に関するしましては、外部に働きかけ、一般の人を対象とした何か有益な講演会でもいかがか等のご提案もありません。

小暮美津子

広報部には、会の唯一の機関誌を発行するという極めて重要な役目があります。機関誌は年四回発行されますが、全国の会員に会の運営や活動を逐一報告し、会の主旨を周知徹底させ、会誌を通して参加していただくという大切な使命があります。

原稿のお願い

会員の動静、支部会の記事等を広報部におよせ下さい。ただし掲載の時期、および採・不採は広報部に二任願いとうございます。

広報部一同

庶務部

三好 美香

昭和六十三年五月の総会で山崎会  
長が再選され、執行部も大幅にかわ  
りました。また今年の総会の準備  
に追われる時期になり、あらためて  
時の流れの早さに感無量の思いでこ  
ざいます。

庶務部は副会長佐藤先生を中心に、  
常任理事白橋先生、三好、理事荒木、  
南雲、福永、八木先生とで担当して  
おりますが、発足早々に庶務部会を  
開き、最初の仕事としての名簿作成、  
その他庶務の仕事に関して検討・協  
議の上、常に互いに連携を密にして、  
女医学会の円滑な運営がなされるよう、  
充分に気をくばっていく事にいたし  
ました。もちろん、庶務は対外的、  
対内的にも非常に重要な位置をしめ、  
会長、各部、事務局と常に連絡をし  
り、諸問題に対し、そのつど適切な  
対応、処理を行なう必要が多く、副  
会長を軸として頑張っております。

女医学会の長い歴史の中で、先輩の  
先生方が、多くの時間をかけ、献身  
し、育てて下さったこの会も、社会  
的には、あまりにも知られていない  
事が多く、非常に残念に思っており

ます。今後はあらゆる機会をとら  
えて、さらに広く理解していただき、  
ますます発展させるべく、現在特に  
会員の増加に力を入れております。

昨年は各支部の総会に、会長をは  
じめ、副会長、理事の先生方がご出  
席下さり、会員、非会員の先生方と  
親しくお話しし、ご説明していただ  
く機会が多くあり、その結果として、  
かなりの会員の加入の報告がござい  
ました。非常に嬉しく思っております。  
ただ残念な事は三月末に自然退会  
者が多く見られることです。そのた  
め、せつかくの苦労も数の上からは  
残念な結果になってしまいました。し  
たがって、今年度は、このような事  
のないよう、この問題に対応し、対  
策を考えてまいりたいと思っております。  
本年一月には天皇陛下が崩御あそ  
ばされ、悲しい思いの中で激動の昭  
和も終り、平成の時代が始まりました  
が、その間、医療をとりまく社会  
状況は一段ときびしく、女医学会とし  
ても、今後の女医学会のあり方等、  
もう一度、山積している諸問題を見

会計部

二村 美美江

六十三年度予算を引きつぎまして  
この一年間の会計部は、石川理事  
ののぞき、まったくの新米メンバー  
で、担当の佐藤副会長もさぞ気をも  
まれたことと汗顔の至りでした。

九月二十四日に山崎会長に懇願ご  
出席なごって、佐藤副会長、野本、  
二村各常任、石川、青井、中濱各理  
事が長嶋修作税理士をおよびして、  
会計基準の話、収支決算の事を話

渉外部

野澤 良美

啓蒙も過ぎましたのに、まだまだ  
お寒い日々でございますが、会員の

に努力してまいりたいと存じており  
ます。  
諸先生方のご指導ご協力を心から  
お願い申し上げます。

希望として、管理部門の細目別の許  
される範囲の節約です。消費税導入  
による3%の値上がりは諸々に響い  
てまいります。しかし事業部門には  
できる限りの女医学会活動を期待し  
たい。この支出を支えて円滑な収支結  
果を得るためには、やはり会費の納  
入率が第一番に関係してまいります。  
予算は70%納入率で組まざるを得  
ませんが、これが平成二年三月にど  
のくらいの上昇率で現われてまいり  
ますか、全会員の皆様のご協力を切  
に期待するものです。  
低金利時代の続く中で、できるか  
ぎり繰り越し金をあてにせず、会費  
値上げを先へ先へと延しながら、内  
容の厚い女医学会活動ができるため  
は、一人でも多く入会して下さるよ  
う会員諸氏のお力をおかし下さい。  
そして、会費を完納して下さい。  
どうかよろしくお願い申しあげま  
す。  
新役員により発足いたしました渉  
外部も早や一年が経とうとしており、  
あまりの早さに、おどろいておりま  
す。  
さて、ご承知のように渉外部には  
国内交流と国際交流がありますが、  
それぞれについてご報告させていただきます。  
まず国内交流においては、NGO  
国内婦人委員会、全体会、国際婦人  
年全体会、連絡会等に出席し、多く  
の婦人団体の方々とも熱心に討議、

検討を続けております。

ことに平等、開発、平和をモット  
ーに二〇〇〇年にむけての民間行動  
計画、すなわち五つの分野、①政策  
決定参加、②教育、マスメディア、  
③労働、④家族、福祉、⑤平和、国  
際協力など女性をめぐる状況の変化  
のほげしい中で討議、研究が続けら  
れております。時には講師として、  
大蔵省、厚生省、大学教授、婦人弁  
護士、税理士の方々によるヒアリン  
グの時間を設けたりいたしております。  
消費税、年金についての知識であ  
ったり、また婦人参政権獲得四十三  
周年を記念しての憲法について考え

るシンポジウムや、世界人権宣言四  
十周年、性差別をなくす女性たちの  
人権集会等々、真剣に各集會が開催  
されております。

また日本女医学会への外国からの  
お客様をお迎えしての歓迎会もござ  
います。四月には、マニラで開催の  
西太平洋地域カンファレンス会議に  
日本からも多数の先生方のご出席を  
と、フィリピン女医学会が来日され  
ました。十月にはブラジルよりの、  
カワノ・ホリデイ女医をお迎えし、  
歓迎会を開催いたしました。  
また、七月には、テレビ東京を  
通じて日米女性合同討論会があり佐  
野、野澤の二名が出席いたしました。

支部だより

北海道支部だより

北海道支部 武田 正子

今、札幌の街は暖冬で、例年にな  
く雪どけが早く路面のアスファルト  
が露出している。車は冬の装備のま  
まで、スパイクタイヤで路面を削り  
とりながら走っている。そのため、  
車粉がたかすみ、霧がかかったよう  
にあたりはかすみ、人々の健康に悪

影響を及ぼしている。公害をまきち  
らす人と被害者とはまったく別人と  
はいい難い。同一人物かもしれない。  
何とも人は愚かというか、未来を予  
見できぬものなのであろう。  
さて、私も北海道支部では、主  
な行事として、年一回の総会と、年

二回の研修会および懇親会を行なっ  
ている。また数年ごとに、北海道在  
住の全女医の名簿を発行しているが、  
昨年末には一戸茂子支部長、高樫芳  
先生はじめ、多数の方々の努力によ  
り、新しい名簿を発行し、全会員に  
発送した。さらに「札幌市健康を守  
る婦人のつどい」に会から、渋谷み  
よ先生を会長として送り出している。  
最近行なわれた研修会には、本年一  
月二十八日(土)札幌市内に約四十  
人の方が集まり、「日本人のHLA  
抗原」について北海道大学名誉教授  
(医学部病理学)の相沢幹先生が約  
一時間にわたって講演され、その後  
活発な質疑応答がなされた。続いて  
懇親会となり、会員の動静や、近況

私の大学

沖繩支部 金城 紀子

沖繩は今、日差しはすでに春とい  
うよりも初夏(うりずんの季節)を  
思わせ、日中では目が眩むほどの季  
節です。  
今回、若輩である私に原稿依頼が  
届いた時、正直言って戸惑ってしま  
いました。沖繩に医学部が設置さ  
れて早八年となり、南の島の若い力  
を少しでも感じとっていただけなの  
らと思ひ、ペンをとりました。  
さて、琉球大学医学部は国立最後  
の医学部として、昭和五十四年に設  
置されました。それまでは、国費・  
私費留学生として本土国立・私立大

報告などで楽しいひとときを過ごし  
た。その中で、長年この会の発展を  
ささえてきて、そして地域医療に多  
大の貢献をされた今鶴子先生のご逝  
去と吉岡弥生賞受賞が報告された。  
今までの研修会の講演の内容は、  
癌免疫、臓器移植、ウイルス、更年  
期、痛み、世界の国々の女医の活躍  
など、さまざまな分野にわたり、講  
師は会員外の北大、札幌大の方々の  
他に、会員の方にもお願いしている。  
各自の所属する専門領域の普段の学

会での話とは違って、別な分野の講  
演を聞くことは大変面白く、新たな  
視野が開け、好評を博している。  
ただ残念なことは、若い人の参加  
が少なく、そのため特別に六年目の  
医学部学生や、卒業直後の方を招待  
してきた。しかし彼女らは次回から  
は多忙や転勤のためか、もう来ない  
だがそれから十数年を経て再び参加  
してきており、このような試みも将  
来への布石とはなっているようであ  
る。  
学医学部へ入学し、卒業後、地元医  
療に従事し、その力がこれまでの沖  
繩医療を支えてきたのです。しかし、  
慢性的医師不足から、期待の医学部  
が設置されたのです。大学附属病  
院は、本島の中央よりやや南にあり、  
東シナ海と太平洋とを見渡せる小高  
い丘陵地にあります。入学当初は、  
校舎は影も形もなく、広いキビ畑を  
見ては本当に医学部ができるのだろ  
うかと不安に思ったものでした。  
一期生は百人入学し(七人は女性、  
三十余名が現在、地元に残り、沖繩  
県の医療に従事しています。

診療の他、昭和六十二年には、大学院医学研究科、昭和六十三年四月には地域医療センターがスタートし、また、保健学科が併せて設置されていることから、両学科の協力の下に包括的医療の実践が望まれています。離島の多い沖縄県において、地域医療に対する本大学のこれからの役割については、大きな期待が寄せられています。

### 第20回内藤記念科学振興賞を受賞して

帝京大学医学部薬理学教室  
教授 藤井 儔子

「妊娠中の母体環境要因—疾病あるいは薬物曝露—により子孫に発現する継世代的機能異常に関する基礎的研究」というテーマで、この十五年間の研究に対し、思いがけず歴史ある賞をいただきました。日本薬理学会のご推薦です。薬理学会といたしましては十六年ぶりのことです。

動物における遺伝形質発現の異常は、大きな要因の影響でおきる遺伝子の突然変異によると考えられてきました。基本的にはこの考えは変わりましたが、近年、遺伝形質発現は出生時に完全に決定されているのではなく、母体環境、出生後の環境要因が重要な影響を与えるとの考えが導入されています。私の研究は妊娠中の内分泌疾患、特にカルシウム代謝

調節系系の大きな異常や、作用の強い薬物への曝露が、予想以上に容易に遺伝形質発現を修飾し、しかも変化した遺伝形質が継代されることをラットを用いて実験的に証明してきたものです。従来では信じがたいような事実も、近年の基礎科学の素晴らしい進歩により、多くの既成概念の修正が行なわれるようになった時代を反映して、この賞をいただけたともいえます。

生殖の領域が自然に身につく、今日には千匹を越すラットを育て、継代と観察とを繰り返すような研究も続けられたのでしょうか。直接のきっかけは何と申しましても現在、岡崎の国立共同研究機構生理学研究所の所長をされておられる江橋節郎先生が、東大医学部薬理学教授でおられた頃—一九七四年に、発生薬理の重要性を唱えられ文部省科研費総合(A)班をくまれ、私もその班員として参加させていただいた事です。骨格筋の発生分化にカルシウム代謝調節異常がどのような影響を及ぼすのかを私の分担研究の第一歩とした成果が、今日受賞テーマの中の大きな要因—内分泌機能異常であり、研究範囲は広くなりましたが、今も続いております。ハーバード大

### 第3回「環境と遺伝」開催のお知らせ

日時 平成元年七月十五日(土)  
午後二時三十分~五時  
場所 東京女子医科大学 臨床講堂(1)

〔演者および演題〕

- 一、藤井 儔子 (帝京大学医学部薬理学教授)  
「妊娠中投与薬物と子孫の機能異常」  
—動物実験を中心として—
- 二、斎藤加代子 (東京女子医科大学小児科講師)  
「進行性筋ジストロフィー—症家系の遺伝子診断」
- 三、中村 道子 (東邦大学医学部精神神経科助手)  
「精神分裂病の遺伝研究」
- 四、石津 澄子 (東京女子医科大学公衆衛生学前教授)  
「環境因子と遺伝素質」

※各演者二十分の講演後、質疑応答の時間を予定しております。

この度、藤井儔子先生には、「内藤記念科学振興賞」を受賞され、まことにめでたくございます。同級生として、心からお慶びを申しあげさせていただきます。

### 藤井儔子先生の受賞を祝う

品川支部 橋元 博子

「内藤記念科学振興賞」というものについてしらべてみました。昭和四十四年、エイザイ(株)創業二十五周年にあたって、当時八十歳になられた創業者内藤豊次氏の私財と、エイザイ(株)からの浄財を基金として内藤記念科学振興財団を設立、その賞は「人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく独創テーマにとりくみ、自然科学の進歩発展に顕著な功績をあげた研究者に贈られる主旨で選考される」ということで、基礎分野二十二の学会長から推薦をうけた中から、専門の選考委員によって、まったく自由な立場から選ばれるので、今回は第二

回、女性としては藤井先生が初めてのことでした。受賞の対象となったご研究は、妊娠中に服用した薬剤の、子や孫の世代への影響について動物実験を重ね、孫の代まで影響

を及ぼすものもあることを証明された由でございます。このことは私どもも日常診療にたずさわる者は、常に念頭にあり心配していることで、世界人類の将来にとっても重大なことであろうと思われまします。さらに解明されていくことを切に願っておりますが、このように息の長い、地味で、大変な智力、労力、忍耐力および判断力のあるご研究をつづけておられる藤井先生に、あらためて感動を覚えております。同級生としてのみなならず、日本の女医全体にとっての誇りであり、よろこびであり、また若い後輩の希望の星でもあると存じます。心からお祝いを申しあげるとともに、さらにご研鑽をつまれるようお祈り申し上げております。

最後に、このように素晴らしい業績に対して、日本女医学会誌上にお祝いをお寄せいただきましたことを、深くお礼申し上げます。

この度、藤井儔子先生には、「内藤記念科学振興賞」を受賞され、まことにめでたくございます。同級生として、心からお慶びを申しあげさせていただきます。

「内藤記念科学振興賞」というものについてしらべてみました。昭和四十四年、エイザイ(株)創業二十五周年にあたって、当時八十歳になられた創業者内藤豊次氏の私財と、エイザイ(株)からの浄財を基金として内藤記念科学振興財団を設立、その賞は「人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく独創テーマにとりくみ、自然科学の進歩発展に顕著な功績をあげた研究者に贈られる主旨で選考される」ということで、基礎分野二十二の学会長から推薦をうけた中から、専門の選考委員によって、まったく自由な立場から選ばれるので、今回は第二

回、女性としては藤井先生が初めてのことでした。受賞の対象となったご研究は、妊娠中に服用した薬剤の、子や孫の世代への影響について動物実験を重ね、孫の代まで影響

### 日本女医史再版予告

本会の大先輩福田幹子先生編集の、昭和三十七年までの日本女医史を復刻再版することになりました。つきましては種々詳細決定次第、またご報告のつもりでございます。

### ■著書紹介

清水新緑編 『清水八束遺稿 産婦人科医ノート』

久保田くら

右の著書は山梨日日新聞社刊行による開業医の記録である。本書のみのりの帯に「愛の心で描く患者のドキュメント」、「人間八束の心のあたたかさ」とかかれている。著者は故郷の甲府市において先代からつづけられている医業について昭和十八年より、亡くなられる昭和五十四年までの永い月日を産婦人科医として地域社会につくされた。著者は誠に気軽に大勢の患者に接し、極めて公平に医療の手をさしのべられた。しかしそののみか、異なる生活を営む各患者およびその家族に対し、愛情ゆたかに応待し、そのおのおの、ある時は相談にのり、場合によっては生き方の指標までも示している。

現在の混沌たる世相の中の医者はさぞかし苦勞も多からうかと察し

発行所 山梨日日新聞社  
〒400 甲府市北口二丁目6-10  
電話 ○五五二二七三三五四一  
定価 一、二〇〇円 (編集委員)

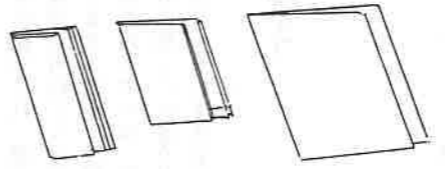


常任理事会議事録

日時 昭和63年12月17日
場所 日本女医会会館
出席者(敬称略)
山崎、小俣、佐藤、石原、久保田
佐野、白橋、二村、野澤、野本、橋本、藤井、丸山、三好
欠席者(敬称略)
大原、橋本
庶務報告
三好常任理事
11月19日 理事会および第一回学術講演研修会開催
11月25日、26日 国際女医会第三回西太平洋地域会議、マニラにて開催
11月28日 国際婦人年連絡会全体会へ佐野常任理事出席
12月7日 世界人権宣言四〇周年記念集會に佐野常任理事出席
12月8日 会員名簿發送
12月10日 世界人権宣言四〇周年性差別をなくす女性たちの人権集會に山崎会長、佐野常任理事出席
その他
一、故福岡マツ子先生ご遺族より供養の品あり
野本常任理事
11月分別紙どおり報告
指定寄付の取り扱い方を今後検討する
各部報告
(渉外部) 佐野常任理事
・世界人権宣言四〇周年記念集會に参加
(広報部) 久保田常任理事
・次回誌発行の原稿内容報告
(学術部) 藤井常任理事
年記念集會に佐野常任理事出席
12月8日 会員名簿發送
12月10日 世界人権宣言四〇周年性差別をなくす女性たちの人権集會に山崎会長、佐野常任理事出席
その他
一、故福岡マツ子先生ご遺族より供養の品あり
野本常任理事
11月分別紙どおり報告
指定寄付の取り扱い方を今後検討する
各部報告
(渉外部) 佐野常任理事
・世界人権宣言四〇周年記念集會に参加
(広報部) 久保田常任理事
・次回誌発行の原稿内容報告
(学術部) 藤井常任理事

便利帳

手紙や、原稿を書いて送る時、どなたでもきちんと角を揃えて折りますが、受け取る方では、あまりにもきつちりと揃えてあると、開きにくいものです。図のように少し角をずらして折ってありますと、この端をもてば開きやすく便利です。おためしになってみて下さい。



小出つる子

第一回学術講演研修会出席者七六名、懇親会五〇名。講演内容を会誌に掲載。経費は、六三四、七〇〇円。
(事業部) 石原常任理事
・日本女医会年金加入促進のためパンフレット作成。年金資金運用方法等今後検討する。
(国際女医会) 藤井国際連絡書記
・国際女医会第二回国際会議について
演題提出者三名あり、会議参加旅行コースをJTBと阪急交通社に依頼、若い女医の参加援助の制度あり。会誌に掲載。
・国際女医会第二回国際会議開催について
会期 一九九二年三月
開催地 ガテマラ(中米)
・国際女医会第二回国際会議開催国について
一九九五年国際会議開催候補の募集あり
・発展途上国への物資援助協力の依頼あり
・第三回西太平洋地域会議報告
参加人数は、日本四名、台湾五名、韓国一六名、オーストラリア三名、ニュージーランド一名、主催国フイリピン一〇〇名。副会長選出方法については、国際女医会定款にもとづいて行なわれるよう提案し、日本は今回の決議を保留する旨連絡する。
・第四回西太平洋地域会議開催について

第21回国際女医会会議
参加のご案内
ソウルで開催されます国際女医会会議が半年後にせまりました。
日本交通公社および阪急交通社から会議後の小旅行案別紙を含む案内が参りました。
概算費用の他に、登録費三十四万ウォン(約六二、〇〇〇円)と日本女医会事務局雑費として三、〇〇〇円が必要となります。詳細につきましては同封のパンフレットをご覧ください。また登録業務は、それぞれの旅行業者が担当いたします。会議参加ご希望の方は、同封の申込書を五月末日まで女医会本部へお送り下さい。

会期 一九九〇年
開催地 オーストラリアのブリスベン
一、昭和64年総会について
別紙のとおり千葉支部より日程、費用等についての案が提出された。会誌に掲載する。
二、吉岡弥生賞審査委員追加選出について(荒川委員ご逝去による欠員補充)
次回理事会にて検討。
三、その他
(1)「婦人展望」購読について
今後購読しない
(2)日ソ親善協会よりアルメニア地震救援カンパの依頼あり
報告事項
(1)メレルグウ製菓より禁煙ポスターの趣旨に賛同し二五万円寄付あり
副会長(庶務担当) 佐藤
庶務部 白橋、三好

理事会議事録

日時 平成元年1月28日
場所 京王プラザホテル 42階

津久井
出席者(敬称略)
山崎、大原、小俣、佐藤、久保田、白橋、二村、野澤、野本、橋本、藤井、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、尾中、小出、小暮、柴田、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、福永、森田、添田、西山、山口
欠席者(敬称略)
石原、佐野、八木
庶務報告
南雲理事
12月17日 日本女医史編集委員会および常任理事会
12月19日 厚生省(昭和63年公益法人台帳提出)
12月24日 第四三回国連総会報告会打ち合わせ会に佐野常任理事出席
1月14日 第四三回国連総会報告会に山崎会長出席
その他
一、厚生大臣小泉純一郎氏より大臣就任挨拶あり
二、厚生省より行政機関における土曜閉庁実施について連絡あり
三、故馬場紀子先生ご遺族より供養の品あり
四、藤田親代先生より難民を助ける会へ寄付あり(一円玉八七四円)
連絡事項
一、日本女子社会教育会より婦人問題セミナーのお知らせ
日時 2月6日、2月13日、2月20日、2月27日各月曜
日午後1時30分〜3時30分
場 所 日本女子会館
参加費 二、〇〇〇円(全四回)
テーマ 高齢化社会と女性たち
会計報告
12月分別紙どおり報告
事業費支出の△の意味について質問あり
「公益法人会計基準」の記載様式に準拠したものである。との説明あり
承認
各部報告
(渉外部) 野澤常任理事
・第四三回国連総会について
(広報部) 丸山常任理事
・会誌一七号發送
(事業部) 橋川常任理事
・日本女医会年金加入促進のためのパンフレットを作製する
(国際女医会) 藤井国際連絡書記
・過日、日本から国際女医会本部へ寄付したコンピューター機器購入費用により入手した機器の写真および礼状あり
・国際女医会第二回国際会議について
参加登録料は、3月末まで据置き演題提出は、現在六題あり

なう委員補充について
野本照子常任理事を吉岡弥生賞審査委員に委嘱。
(2)入歯プロテクターについて
当会の事業としては施行しない。
(3)難民を助ける会への寄付について
当会では、今後当該寄付の取り扱いはいはしない。
報告事項
一、1月28日審査委員会を開催し下記の受賞者を決定した。
(1)吉岡弥生賞
竹宮敏子(東女医大内支部)
今 鷺子(北海道支部)
(2)荻野吟子賞
宮崎安子(非会員)
依頼事項
一、次回常任理事会に各部より次年度事業計画案および予算額の提出をされたい。
副会長(庶務担当) 佐藤
庶務部 白橋、三好、荒木、南雲、福永

第21回国際女医会会議への若い女医の参加援助
会期 一九八九年九月三日(日)〜八日(金)
開催地 韓国ソウル市
国際女医会会議でヤング・フォーラムが持たれます。若い女医さんの他に女子医学生の参加も歓迎いたします。登録費が国際女医会本部から支給されます。三名の方にソウルまでの往復旅費の一部を日本女医会が援助することになりました。
会期中に開催される若い会員によるワークショップ(各国交流促進手段について)への出席を義務づけられます。
\*希望者は国際連絡書記へお申し出下さい。
(〒173東京都板橋区加賀2-11-1)
TEL(三)九六四(二二二) 内線(二二四五)
帝京大学医学部薬理学教室 藤井 雫子
\*会員の皆様も若い会員、身近な学生さんにおすすめ下さい。

日 時 平成元年2月25日
場 所 日本女医会会館
出席者(敬称略)
山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、白橋、野澤、野本、橋本、藤井、丸山、三好
欠席者(敬称略)
佐野、二村
常任理事会議事録
一、総会について
別紙のとおり千葉支部より日程、費用等についての案が提出された。会誌に掲載する。
二、その他
(1)吉岡弥生賞審査委員欠員にもと

常任理事会議事録
一、総会について
別紙のとおり千葉支部より日程、費用等についての案が提出された。会誌に掲載する。
二、その他
(1)吉岡弥生賞審査委員欠員にもと

第21回国際女医会会議への若い女医の参加援助
会期 一九八九年九月三日(日)〜八日(金)
開催地 韓国ソウル市
国際女医会会議でヤング・フォーラムが持たれます。若い女医さんの他に女子医学生の参加も歓迎いたします。登録費が国際女医会本部から支給されます。三名の方にソウルまでの往復旅費の一部を日本女医会が援助することになりました。
会期中に開催される若い会員によるワークショップ(各国交流促進手段について)への出席を義務づけられます。
\*希望者は国際連絡書記へお申し出下さい。
(〒173東京都板橋区加賀2-11-1)
TEL(三)九六四(二二二) 内線(二二四五)
帝京大学医学部薬理学教室 藤井 雫子
\*会員の皆様も若い会員、身近な学生さんにおすすめ下さい。

野澤常任理事出席

その他

- 一、厚生省政務次官栗山 明氏より政務次官就任挨拶あり
- 二、厚生省より大喪の礼に伴う交通対策について連絡あり
- 三、厚生省健康政策局より「医療と消費税」その仕組みと取り扱いについて説明書あり
- 四、故大下久代先生ご遺族より供養の品あり
- 五、一戸茂子北海道支部長および野沢京子先生より今 鷺子先生の吉岡弥生賞受賞決定および香典の礼状あり

会計報告

1月分別紙どおり報告

各部報告

野澤常任理事

- ・2月13日、国際婦人年連絡会に出席。「新国内行動計画」印刷資料あり。
- ・国会議員およびNGO代表者のフイリピン研修旅行参加へのお誘いあり。

(広報部)

久保田常任理事

(事業部)

石原常任理事

日本心臓財団より女医会の禁煙ポスターをジュネーブへ発送した旨連絡あり。

(学術部)

橋本常任理事

2月12日、学術部会開催。学術研究助成申請者四名。全員に授与と決定。今後規約の見直しを検討する。

(国際女医会) 藤井国際連絡書記

国際女医会第二一回国際会議について JTB、阪急交通社より旅行コースについて別紙の計画書が提出された。次回の会誌に掲載。

議事

一、平成元年度事業計画案および各部よりの予算要望額について

- ①講演研修費 1,500,000円
- ②研究助成費 350,000円
- ③ワークショップ費 1,000,000円
- ④へき地診療への助成 400,000円
- ⑤公衆衛生 1,000,000円
- ⑥支部助成 500,000円
- ⑦荻野吟子賞 100,000円
- ⑧渉外費 600,000円
- ⑨広報部 1,100,000円
- ⑩機関紙 1,100,000円
- ⑪国際女医会費 1,100,000円

渉外費

600,000円

広報部

1,100,000円

機関紙

1,100,000円

国際女医会費 1,100,000円

吉岡弥生賞、荻野吟子賞規定改正について

次回理事会にて検討。(文案、佐藤副会長担当)

(1)第三回ワークショップについて

日時 平成元年7月15日(土) 午後2時30分~5時

場所 東京女子医科大学臨床講堂(1)

演者予定 藤井儔子先生、柴田

洋子先生、斎藤加代子先生、石津澄子先生

演題については、4月15日までに決定する予定。

(2)第二回学術講演研修会について

平成元年11月25日(土)に開催予定 演題、会場未定

(3)年金について

年金掛金自動振り込み委託銀行として、新たに東海銀行を加える。振り込み手数料は、一件につき九〇円とする。

(4)日本女医史について

日本女医史製作費の見積を検討する。

依頼事項

一、5月の千葉総会申し込みがき未提出の方は、至急提出されたい。

以上

副会長(庶務担当) 佐藤

庶務部 白橋、三好

入会会員(敬称略)

宮城支部 渡部光子

群馬支部 石井弘子

千葉支部 小田島理恵子

大田支部 中村千春

新宿支部 静 正子

豊島支部 原田稔子

井尾裕子

会員動静

港支部 高岡邦子

東女医学内支部 矢後文子

神奈川支部 米沢文子

岐阜支部 前川喜久美

滋賀支部 福富登美代

京都支部 綿谷須賀子

今林ミチ子 宮尾園子

播岡富士子

木暮美津子

広島支部 小武家暁子

新卒入会会員(敬称略)

北海道支部 池田しえり

埼玉支部 岡田まゆみ

東女医学内支部 岩下篤子

神奈川支部 林 由里

山県さゆり

愛知支部 岡野美紀

大阪5支部 葛川頼子

大阪8支部 飯田亭子

物故者(敬称略)

北海道支部 今 鷺子

目黒支部 川口夫佐子

都下西支部 井上富美

広島支部 木下富子

集記



会誌第一一八号をお届け致します。自然界は桜花爛漫の春を迎えましたが、医界は未だ寒風吹荒ぶ厳冬の真只中にあります。医師を廻る環境は一段と厳さを加え、人心の荒廃著しき昨今、武見太郎の時代はよかつたとの声を多く聞きます。失ったものの偉大さは失って後に初めて知ると申します。これを他山の石にしてはなりません。最近、故き記録を読む機会を得て、日本女医会草創期の女医は偉大であったと改めて知りました。混沌の現時点において、吉岡弥生が日本女医会を創立した原点に還って考える事が肝要と思致します。会誌は会の歴史として永遠に残ります。正確さとともに、内には会員の親睦を計り、明鏡止水、会の姿があるがままに写し出し、対外的にはプロバガンダの役務を果たす事にあります。広報部は格調高き会誌を発行するために、部員一同協力一致して微力を尽くす所存なれば、会員諸姉のご叱正ご後援をお願い致します。税制改革、学会等、年度末の超繁忙期にも関わらず、玉稿を寄せられた諸先生にお礼申し上げますと同時に、発刊日を確保するために、原稿締切日にご協力下さるよう編集に関わる者一同よりお願い申し上げます。(明石)

平成元年4月20日 印刷  
平成元年4月25日 発行

編集人 久保田くら

発行人 日本女医会

発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-817 青山宮野ビル

社団法人 日本女医会

TEL (03) 577-1151

TEL (03) 577-1151

制作 東京都文京区水道1-5-16 (815) 六六六一

株式会社 金剛出版